

# 北野散策

## プロローグ

十辺舎一九の『東海道中膝栗毛』に弥次・喜多が北野の天神さんへ詣でるくだりがあり、北野・下ノ森の様子が細かく描写されています。「いたって賑やかで芝居小屋や見世物、大道芸、瓦版うり、こうしゃく、よしずばりの水茶屋、菜飯田楽を売る茶屋などおびただしくあり」と。古くから開けた北野。界限には人々の永い営みのなかから、数多くの逸話や伝説が生まれ、今に語り継がれています。

スタート:立本寺(灰屋紹益墓所)→光清寺(浮かれ猫絵馬)→観音寺(百たたき門)  
→竹林寺(志士の眠る地)→川井家→法輪寺(だるま寺)→奥溪家:ゴール



## 吉野大夫と灰屋紹益の恋物語は本当か?

立本寺の墓地に、島原の吉野大夫を見受けした豪商・灰屋紹益の笠石をのせた立派な墓があります。

大夫の見受けで、父・紹由から勘当を受けた紹益。後にその勘当が許されたのには、このような経緯がありました。あるとき町へでた紹由は、突然の雨にあい、ある家の軒先に雨宿りしました。それを見かねたその家の女あるじが、家の中に招き入れ茶菓でもてなしました。そのときの態度や物腰に深く感じ入った紹由は、友人の本阿弥光悦にそのことを語ったところ「その女性こそ、あなたの子息の紹益さんのお嫁さんですよ」。といわれて深く恥じ入り、紹益の勘当を解きました。

しかしながら、鷹ヶ峰の常照寺に墓のある吉野大夫は、紹益より十四才も年長。また、紹由が没したときには、子・紹益は十三才。はたして吉野と紹益の恋は成立したのでしょうか。



## 寺々が建ち並ぶ出水通に出水七不思議?!

### ◇浮かれ猫絵馬◇

出水界限には、出水七不思議が伝わります。

晴天でも露を含み、しずくを落とす華光寺の時雨松。玉蔵院の応挙幽霊画。穴のあいた小石を奉納し、日を限って祈願すると耳の病気が治る日限薬師。観音寺の百たたき門。境内にある井戸の水を飲むと、勝負事に必ず勝つという極楽寺の金谷水。小袖門の木目が釈迦が横たわる姿に見える五劫院の寝釈迦。そして、光清寺境内の鎮守弁天堂のひさしに掲げられている「浮かれ猫絵馬」で

す。

この絵馬は真向き猫とも呼ばれ、その昔、出水通りに夜のとばりがおきる頃、同寺の弁財天あたりから三味の音がながれてくる。ある時、好奇心にかられた若者が覗き込むと、三味の音に合わせて天女が舞い踊る姿がありました。あまりの驚きに声をあげると天女の姿は消え、目を光らせた一匹の猫が現れました。

誰言うとなく「浮かれ猫絵馬の仕業だ」と、人々は不気味がり、同寺を避けて通るようになりました。思い余った時の住職が、絵馬に金網をかぶせて猫を封じ込めました。以後、三味の音は聞こえなくなったといひます。

「猫が浮かれて踊りだすほど三味がうまくなる」という噂が広まり、三味線上達祈願の信仰を集めています。

#### ◇百たたき門◇

出水通りの西のはずれの七本松に「百たたき門」と呼ばれる山門をもつ浄土宗観音寺があります。

同門は1623年、徳川家康の命によって伏見城が取り壊されたときこの寺に移築されたもので、牢獄門であったと伝えられています。扉は楠の一枚板で、牢門にさえ贅を尽くした豊臣秀吉の為政のほどが偲ばれます。

百たたきといわれる所以は、刑期を終えた罪人がこの門をくぐり解き放たれ、軽微なものは門前で百たたきの罰を受けました。苦しい牢生活のあと、竹鞭に打たれ、血を吐き、息絶える者もいたといひます。

門が観音寺に移されてほどなく、一つの噂が広まりました。「観音寺さんの前を通ると、人の泣き叫ぶ声がする。きっと罪人の霊が門に乗り移ったに違いない」と。

ある日、噂を確かめようと住職が木陰からうかがうと、やはり風が吹くたびに門が開き、泣き叫ぶような人の声がする。思案のあげく住職は百日の間、断食し鎮魂の念仏を唱えました。以来、二度と人の声は聞こえなくなったといひます。



#### 志士の眠る地

紙屋川の東、下ノ下立売通りに面し北側に朱塗りの山門をもつ竹林寺があります。

その赤門をくぐると、山内右側に六角獄舎殉難志士の墓があります。

この墓には、元治元年7月19日に起きた禁門の変、いわゆる蛤御門の戦いの時、その兵火の混乱に乗じての

逃亡を恐れ、六角獄舎に未決のまま投獄されていた生野義拳(幕府直轄の銀山がある生野の代官所を七郷落ちの一人沢宜嘉を戴いて、平野國臣が襲撃した事件)の國臣ら四志士、池田屋事件で新撰組に囚われた古高俊太郎他七志士、天誅組大和義拳の十六志士、その他の事件関係十志士、計三十七志士を次々と斬首したとされる遺骸が、氏名を朱書した瓦片とともに納骨されています。

しかしながら、この遺骸はもともとこの寺にあったものではなく、西刑場(現在の太子道東付近)で見つかったものを、明治十年二月に当時無住であった竹林寺に近隣の壇信徒が改葬したものです。



#### 京都で唯一の室町期の町家・川井家

川井家のすべての柱はカンナを使わずに手斧のなぐり方式で処理され、部屋は板敷き、現在瓦葺きの屋根部分は草葺きであったと伝えられています。

紙屋川のほとりには、いにしえの人々の営みを今に伝える民家の遺構が残ります。



#### 堂内におびただしい数のだるまさん

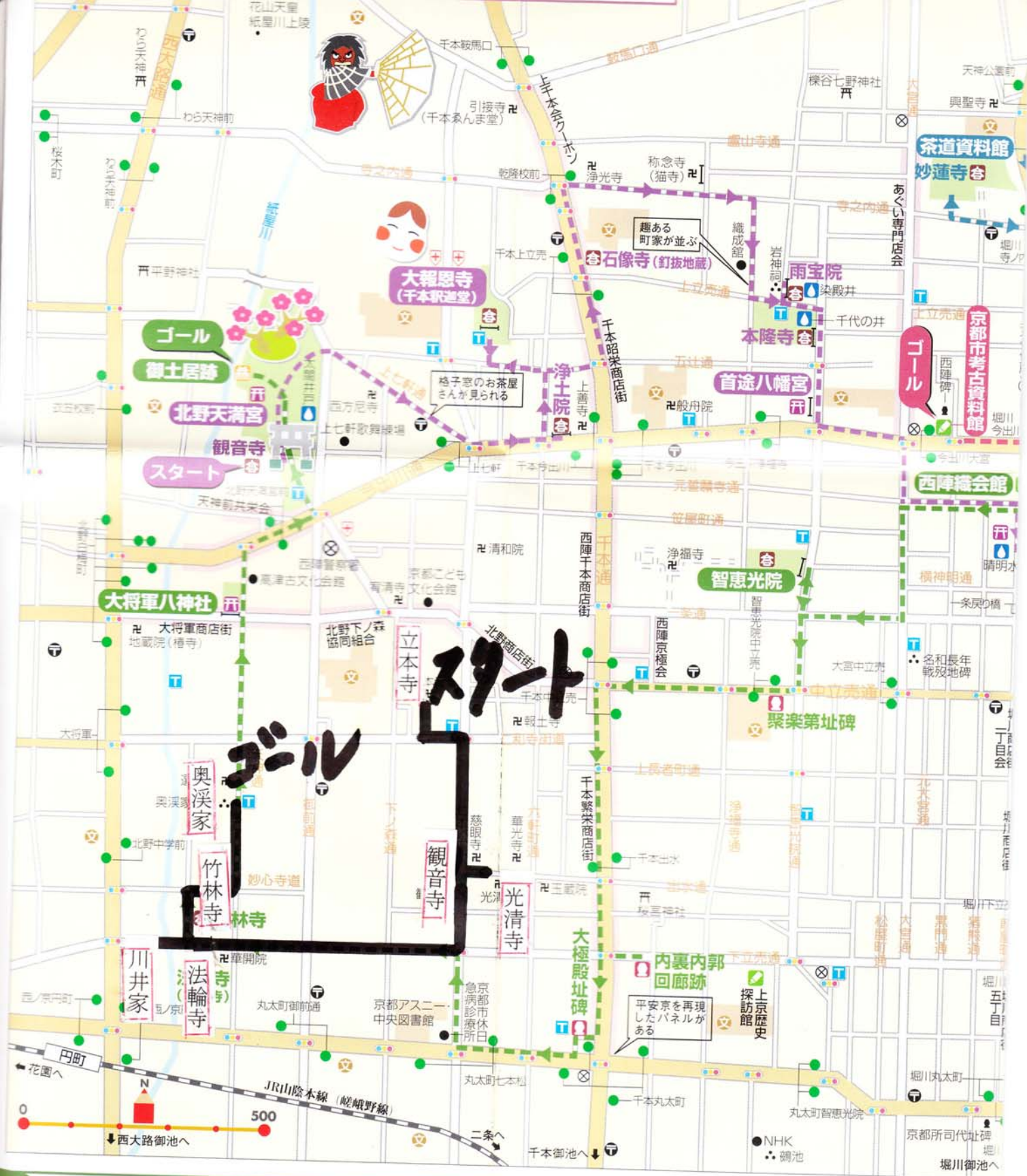
赤門の竹林寺の向かいに達磨寺の通称で知られる法輪寺があります。境内の達磨堂には諸願成就を祈って奉納されただるまさん八千余体が蔵められています。その傍らに日本映画発祥の地・京都にふさわしく、映画創業以来の関係者四百余霊を祀る貴寧磨(キネマ)殿があります。

また、どこか異国風の趣の境内には、インドや中国産の竹の珍種が数多く植えられています。



#### 江戸期の職住一体の町家形態・奥溪家

児童公園の向かいにある茅葺きの長屋門。代々仁和寺門跡の御典医をつとめた奥溪家の下屋敷で、主屋とともに昭和五十八年に市の有形文化財に指定されています。玄関には「西之京奥溪 根元蘇命散」の看板が掛かり、用途に応じて入口も四ヶ所あるなど、当時の職住一体の町家形態を随所にとどめています。



スタート	ゴール
<p><b>智恵光院</b></p> <p>700 m 9分</p> <p>● 智恵光院中立売 4分</p> <p>20分</p>	<p><b>北野天満宮前</b></p> <p>300 m 4分</p> <p>すぐ</p>
<p><b>聚楽第址碑</b></p> <p>300 m 4分</p> <p>● 智恵光院中立売 すぐ</p> <p>5分</p>	<p><b>無御土居跡</b></p> <p>300 m 4分</p> <p>すぐ</p>
<p><b>内裏内郭回廊跡</b></p> <p>600 m 8分</p> <p>● 千本丸太町 3分</p> <p>5分</p>	<p><b>大將軍八神社</b></p> <p>950 m 12分</p> <p>● 北野白梅町 3分</p> <p>30分</p>
<p><b>大極殿址碑</b></p> <p>300 m 4分</p> <p>● 千本丸太町 すぐ</p> <p>5分</p>	<p><b>大將軍八神社</b></p> <p>950 m 12分</p> <p>● 北野白梅町 3分</p> <p>30分</p>
<p><b>法輪寺(達磨寺)</b></p> <p>900 m 11分</p> <p>● 西ノ京田町 3分</p> <p>15分</p>	<p><b>竹林寺</b></p> <p>150 m 2分</p> <p>● 西ノ京田町 3分</p> <p>15分</p>
<p><b>智恵光院</b></p> <p>700 m 9分</p> <p>● 智恵光院中立売 4分</p> <p>20分</p>	<p><b>大將軍八神社</b></p> <p>950 m 12分</p> <p>● 北野白梅町 3分</p> <p>30分</p>